

2015年4月25日【土】→6月28日【日】

戦後70年

開館時間：9:30～17:00 水曜日(祝日を除く)は19:00まで開館時間を延長します。(券売は各30分前まで)
休館日：月曜日(ただし5/4は開館し、5/7は休館します)
入館料：一般300円、小・中学生150円(この料金で当館常設展および横浜ユラシア文化館もご覧いただけます)
※毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

時計屋さんの昭和日記

一青年のみた戦中戦後の横浜



奉公先の時計店の前で(個人蔵、昭和10年代) 本展の主人公・下平政照は後列左。



横浜市史資料室蔵

「野沢屋の前で
防火空演習を見る。
警官が鉄かぶとも
甲斐がいく
守つて居た」

(昭和16年10月20日、24歳)



横浜市史資料室蔵

「野毛のマーケット、
俗に云ふヤミ市には
商品も次第に
並べられてあるが、
値の高い事は
云ふまでもない」

(昭和21年7月18日、29歳)



個人蔵

一青年のみた戦中戦後の横浜



個人蔵

横浜開港資料館蔵

横浜開港資料館蔵

個人蔵

昭和5年(1930)、12歳の少年が信州の伊那谷から横浜・根岸の時計屋にやってきた。少年は華やかなモダン都市の空気を吸いながら時計修理の腕を磨き、青年へと成長していく。

やがて戦争がはじまった。生活は徐々に苦しくなり、昭和19年、青年はついに出征した……。

昭和21年、戦争から復員した青年は空襲で変わり果てた横浜を見た。

食糧事情が逼迫する厳しい時代。しかし、一心不乱に仕事に打ち込んだ青年は自分の時計屋を滝頭に開く。

昭和26年、青年は妻を迎え、やがて子をなした。日本の高度成長はまもなくはじまる……。

青年の名は下平政熙しもだいらまさひろという。政熙は横浜にやってきたその日から平成6年(1994)に76歳で亡くなる前日まで日記をつけていた。ことに戦中・戦後混乱期の日記には、この時代の生活と世相が臨場感豊かに描かれており、読むものをひきつけてやまない。

今年は戦後70年を迎える。本展では、昨年存在が明らかになったこの日記をもとに、激動の時代(1930～51年頃)の横浜のくらしと世相を、一人の青年の視点から追っていきたい。



下平政熙氏の日記(個人蔵)



展示構成

- プロローグ 伊那谷から横浜へ
- 第1章 休業時代 ～時計店から見たモダン都市～
- 第2章 長引く戦争 ～「非常時」の日常生活～
- 第3章 横浜の空襲
- 第4章 復員、そして独立開業 ～戦後混乱期の世相～
- エピローグ 新たな家族を迎えて

資料図版 1.政熙に召集命令が下る(個人蔵、昭和14年) 2.ホテルニューグランド裏手から見た空襲直後の山下町(当館蔵、昭和20年) 神奈川県警の警察官が職務上撮影したもの。本展が初紹介となる。 3.戦後混乱期に使用されたパン焼き器(当館蔵) 4.独立開業した下平時計店の前で(個人蔵、昭和30年頃)

戦後70年 関連展示

- 横浜市史資料室
ミニ展示「戦後70年 戦争を知る
—横浜の空襲と戦災関連資料から—
4月中旬～7月中旬
横浜市西区老松町1番 横浜市中央図書館地下1階
Tel.045-251-3260
- 横浜開港資料館
「防空演習と警防団」(仮)
特別資料コーナーでのミニ展示
5月9日(土)～5月31日(日)
横浜市中区日本大通3 Tel.045-201-2100

関連事業

ギャラリー連続講座

「時計屋さんの横浜日記を読み解く」

日程・演題:

- ① 5月2日(土) モダン都市のくらし
- ② 5月16日(土) 戦争がはじまった
- ③ 5月30日(土) 苦しくなる生活
- ④ 6月13日(土) 空襲と占領軍

※特別講師:羽田博昭氏(横浜市史資料室)

- ⑤ 6月27日(土) 戦後混乱期の生活事情

講師:④以外は展示担当調査研究員

時間:14:00～15:00 会場:当館1階ギャラリー

申込方法:事前申込不要 先着順30名

受講料:各回200円

展示担当者による展示解説

5月3日(日祝)、5月13日(水)、5月31日(日)、6月14日(日)
5月13日(水)は18:00～ その他の日は14:00～ 45分程度

旧第一玄関写真展

「家族の風景—昭和30年代。下平家のアルバムより」
下平家のアルバムから、家族と昭和30年代の横浜の風景を見つめます。

日程:4月25日(土)～6月28日(日)

会場:当館1階旧第一玄関

ワークショップ

「日記にみる戦前・戦後のくらしを体験してみよう!」

日程:会期中の毎週土曜・日曜・祝日

アクセス

- 東急東横・みなとみらい線日本大通り駅(3番出口)0分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン関内駅(1番出口)から徒歩約10分
- JR京浜東北・根岸線関内駅(南口)から徒歩約10分
- 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分



横浜都市発展記念館

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453

横浜都市発展記念館 | 検索

■開港記念日は無料開館!
6月2日(火)の開港記念日は無料開館します。展示関連イベントも開催!